教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県岩手町

学校数

小学校　8校　中学校4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当町は岩手県の内陸北部に位置し、震災による人的被害はなかったが、火災が1件発生し、道路の陥没が3カ所あった。ライフライン（電気、水道、電話）は 3/18 に復旧。地域ぐるみでの防災意識が高まっている。（仮設住宅数：0）

＜取組名＞　～　里川キャンプ　～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
		○		南山形各団体連絡協議会など
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			1	旧南山形小学校など

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
			○	○	（　自然体験活動　）

「里川キャンプ」　平成 24 年7月 30 日（月）から同 31 日（火）に実施

岩手町中央公民館では、夏休みにふるさとの自然を体感する目的で、「里川キャンプ」を旧南山形小学校などで開催した。子どもの夏のイベントとして恒例となったこのキャンプは、地元の南山形各団体連絡協議会や町婦人団体連絡協議会などの協力が大きな原動力となっている。

初日は地元の盆踊りの習得、非常時を想定したカンカラ炊飯とカレー作りへの挑戦、友情を深めるキャンプファイヤー。2 日目は、丹藤川での水生生物調査、川遊び、地域の拠点となっている旧校舎から流れ落ちる流しそうめん。

今年は、2 日目から盛岡市、八幡平市、滝沢村からの子ども達の参加があり、地元の自然を再認識できる丹藤川には、例年よりもにぎやかな声が響き渡った。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

岩手町は、盛岡市の中心から北へ 30 キロ、北緯 40 度に位置し、「北上川の源泉のまち」、「彫刻のあるまち」、「ホッケーのまち」などさまざまな顔を持っている。

震災による大きな被害はなかったものの、子どもたちの自然災害へ対する不安は高まっている。当町の財産である豊かな自然に触れ、自然の大きな力を体感することで、次代を担う子どもたちに自然とともに生きるための様々な知識や技能を身につけさせる必要がある。

◇住民等からの要望・必要な取組

少子化も当町の抱える大きな課題である。地域における子ども同士の触れ合いが少なくなった現代においては、様々な遊びや体験活動、団体生活等を通じて子どもたちの視野及び交流の輪を広げることが重要である。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

【協力をいただいている団体】

・地元南山形地区各種連絡協議会（周辺整備）
・南山形さんさ踊り保存会（さんさ踊り体験）
・岩手町婦人団体連絡協議会（流しそばの準備等）
・岩手県自然観察指導員

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・町企画商工課、農林環境課、教育委員会事務局の職員の応援を頂いている。
・町の新採用職員の研修として職員派遣を頂いている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

今年度は、水生物調査と川遊びを分けて実施したが、水生物調査が以外と人気があった。また、調査結果から指標生物のカワゲラ・ヘビトンボ・ヒララカゲロウ・ナガレトビゲラが確認された。これらの生物は、水質階級1に該当する生物で、丹藤川がきれいな川であることが確認できた。

２日間にわたり岩手町の貴重な財産である丹藤川の豊かな自然に触れ、地域の良さを体感するとともに、様々な活動を通じて友情の輪を広げることができた。今年度は町外の子どもたちの参加もあり、新しい友達をたくさん作ることができたことも大きな成果である。

◇課題や今後の展望

今後も、地域のもつ豊かな自然、伝統文化、人材等を生かしながら、次代を担う子供たちの健全育成を図っていく。